

# ミライの埼玉県庁、作ってます！

～働きやすい職場(スマートオフィス)の整備と県庁舎の再整備に向けた取組～



# 総務部

私たち総務部は、県庁組織の中の「縁の下の力持ち」として、職員の人事などの内部管理などを行っています。また、県税事務や入札事務についても所掌しています。



## 構成課所

人事課 職員健康支援課 文書課 学事課 税務課  
県税事務所(14所) 自動車税事務所 個人県民税対策課  
管財課 統計課 総務事務センター 行政監察幹  
入札課 入札審査課 県営協議事務所

## 活躍している職種

一般行政／一般事務 建築職 設備職 総合土木職 保健師

## 主な業務

- 職員の任免、人材開発、給与、サービス管理等
- 職員の厚生福利及び衛生管理等
- 条例等の立案及び審査、文書事務の指導等
- 私立学校の認可、助成、検査指導等
- 県税の賦課徴収等
- 公有財産の統轄、県庁舎の管理等
- 統計法の施行、統計資料の編集発行等
- 行政監察、内部統制
- 物品の調達、契約事務の企画調整及び指導等  
etc...

# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

- 1、スマートオフィス事業とは
- 2、オフィス形態の変遷
- 3、過去の実施事例（執務室）
- 4、過去の実施事例（ワークラウンジ）
- 5、今年度のスマートオフィス事業
- 6、今後の展開（職員のワークエンゲージメント向上の取組）

# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 1、スマートオフィス事業とは

### (1) 目的

職員の執務効率の向上及び優秀な人材の確保並びに来庁者の利便性の向上を目的として本庁舎において実施してきた従来の「執務環境改善事業」を更に充実させ、デジタル化の進展を踏まえた創造的な生産活動を行う働きやすい執務環境の実現に向けて取り組むものである。

### (2) 方針

キャビネット個数の削減、文書量の削減、机等什器面積の削減を図ることで通路幅員の拡充、複数課のオープン化及び相互利用可能な共用スペースの配置、多様な業務内容・デジタル化に対応したスペースを創出（集中・交流・打合せスペース）する。



# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 2、オフィス形態の変遷

### 日本企業のオフィス形態の変遷

～1990年代後半	<b>固定席</b>	部署ごとに島をつくる「対向島型」であり、一人ひとりに固定席が割り当てられる
1990年代後半～2000年代	<b>単純フリーアドレス</b>	壁を全て取り払い、席数を減らして共有化し、従業員に席を自由に選択してもらう
2010年代半ば～	<b>固定席型ABW</b>	自席(固定席)があり、そこをベースに自分の活動に適したオフィス内のスペースに移動できる
	<b>ABW</b>	色々なタイプのゾーンから、完全に自由に座席を選ぶ

○ABWでは高いクリエイティビティが達成される一方、座席選択が自由なだけの「単純フリーアドレス」の勤務環境は、クリエイティビティを創出できない。

※ABW (Activity Based Working) とは、その時々の仕事の内容に合わせて、働く場所を自由に選択する働き方を指します。

# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 3、過去のスマートオフィス事業（事務所編）

### レイアウトプラン キャビネットの削減・ABWスペースの創出 結果

キャビネット収容量前後比較

		現状① (Fm)	変更後② (Fm)	②/①
2F	県土整備政策課	199.79	99.90	50.0%
	建設管理課	161.52	81.00	50.1%
	2F合計	361.31	180.90	50.1%
3F	河川砂防課・河川環境課	290.27	178.20	61.4%
	3F合計	461.69	178.20	38.6%
	4課合計	823.00	359.10	<b>43.6%</b>

#### キャビネットの削減

2F県土整備政策課と建設管理課については50%削減に成功しました。

3F河川砂防課・河川環境課については執務室だけでは現状比61.4%にとどまりましたが、分室の整理により分室分込みで38.6%と大幅に削減できました。

トータルでは現状比43.6%と半分以上の書庫削減を行うことができました。

ABWスペース面積前後比較

		現状① (㎡)	変更後② (㎡)	②/①
2F		11.9	43.9	368.9%
3F		4.4	34.6	786.4%
	4課合計	16.3	78.5	<b>481.6%</b>

#### ABWスペースの創出

2Fは共有コーナーの充実を図ったため現状比368.9%と大幅に増加しました。

3Fは分室撤去による執務室拡張でスペースを活用して、786.4%という大幅な増加となりました。

トータルでは5倍に近いのスペース創出となりました。

# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 3、過去の実施事例 (執務室)

### 物品調達

- ・ 執務机は将来的にフレキシブルに対応できるようにフリーアドレスデスクとする。
- ・ 将来的な全庁的な転用を考慮し、昨年までの執務環境改善で採用された埼玉県庁標準タイプを選定。
- ・ 収納庫は壁面に集中保管を原則とし、中間収納庫設置の際はH1200を超えないものとする。
- ・ 従来デスクのような袖机を廃し、個人用ロッカーによる管理とする(役職は除く)。
- ・ 打合せ、集中ブースにて使用するパネルは騒音を考慮し、吸音タイプのパネルを使用する。
- ・ 執務室を圧迫しないよう高さをH1340までとする。
- ・ 内部ミーティングは時間効率を上げるため立式のテーブルもしくは収納庫を活用する。

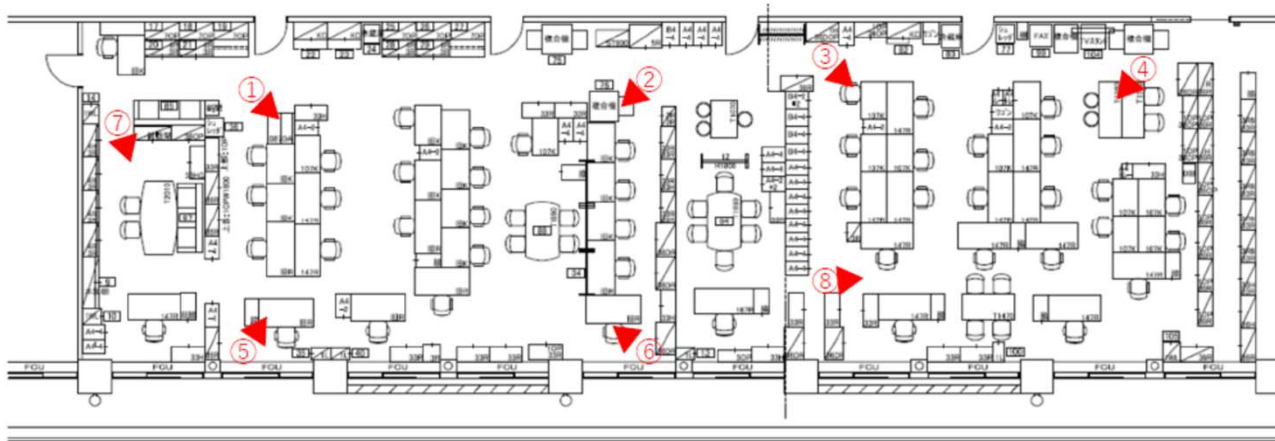
【イメージ】



# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 3、過去の実施事例(執務室)

改修前後 比較写真  
事例・2F現状



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

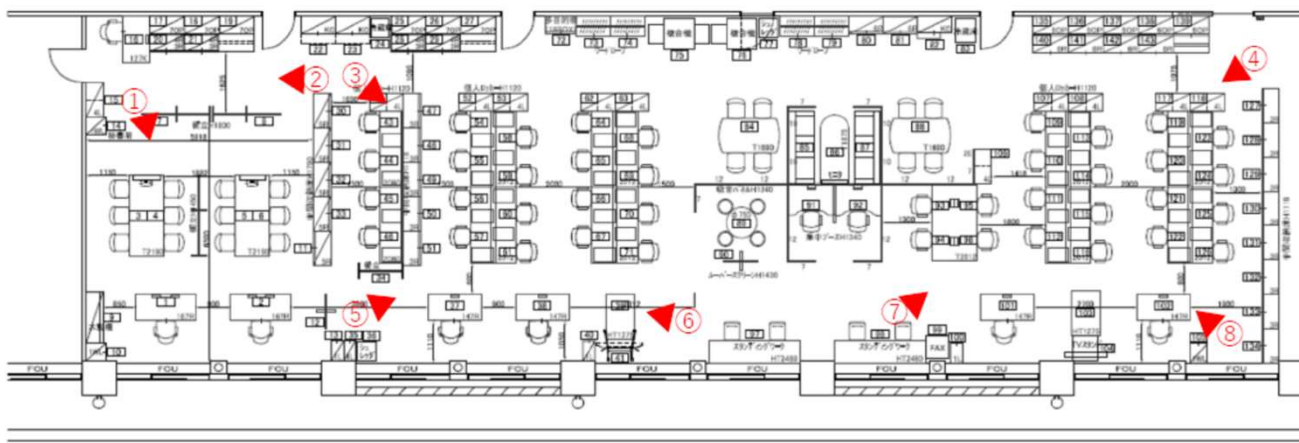




# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 3、過去の実施事例 (執務室)

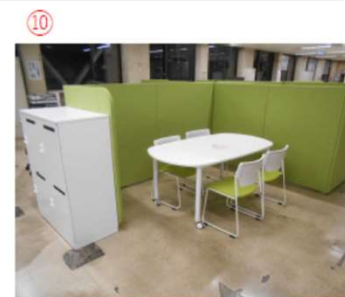
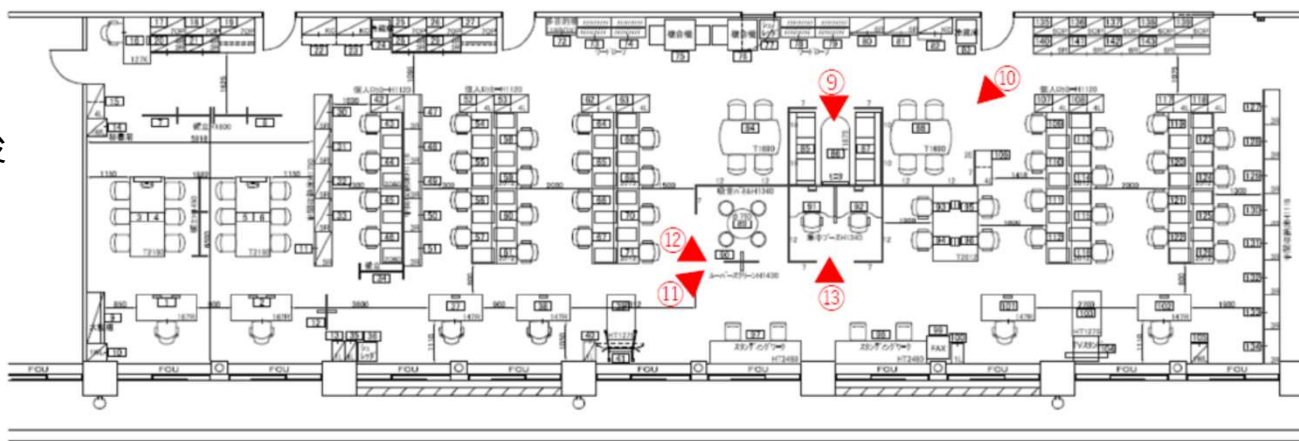
改修前後 比較写真  
事例・2F変更後



# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 3、過去の実施事例(執務室)

改修前後 比較写真  
事例・2F変更後



# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 4、過去の実施事例 (ワークラウンジ)

もともとは、浄書センター (=紙を大量に印刷する場所) でした。  
ペーパーレスの推進により、浄書センターが不要に  
職員の新しい働き方に対応したワークスペースにしよう！

### ワークラウンジ

**Work (仕事) + Lounge (交流の場)**

いつでも気軽に使えるよう原則予約不要に

需要の多い会議スペースと集中ブースのみ予約制

リアルタイムの利用状況が見える化

情報システム戦略課の I T コンサルさんの協力によりお金をかけずに実現

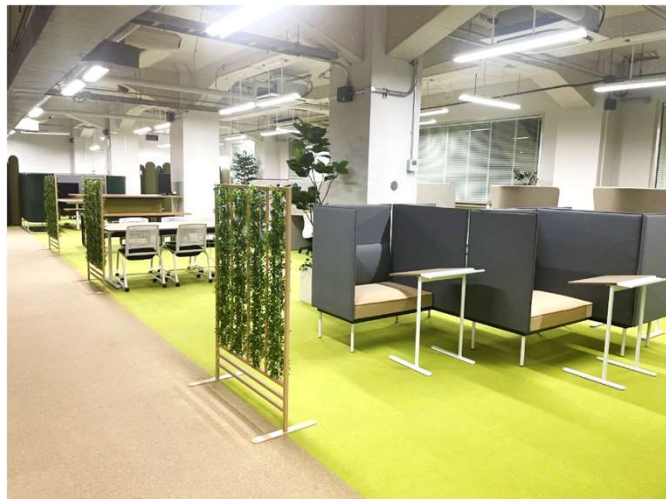
リラックスできる環境を重視

コーヒー自販機の導入や靴を脱いでリラックスできるように



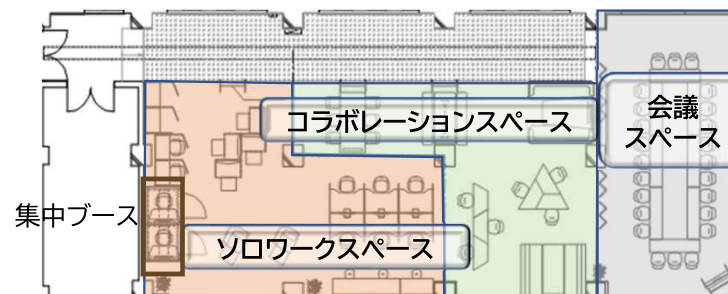
# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 4、過去の実施事例 (ワークラウンジ)



### 利用案内

- ・開庁日 8:30~17:15
- ・県職員はどなたでもフリーで利用可能
- ※会議スペース・集中ブースは要予約



### ソロワークスペース

集中して業務に取り組みたいときに

- ・ソファー席、個別ブースなど21席
- ・Web会議にも対応した集中ブースあり(2席:要予約)
- ・デスクにはサブモニター設置



### コラボレーションスペース

担当や他課とのミーティング・交流に

- ・4人~6人でミーティングできるテーブル、ブース
- ・色々な組み合わせで1人~6人で使えるデスク
- ・テーブル、ソファー席にはサブモニター設置



### 会議スペース(※要予約)

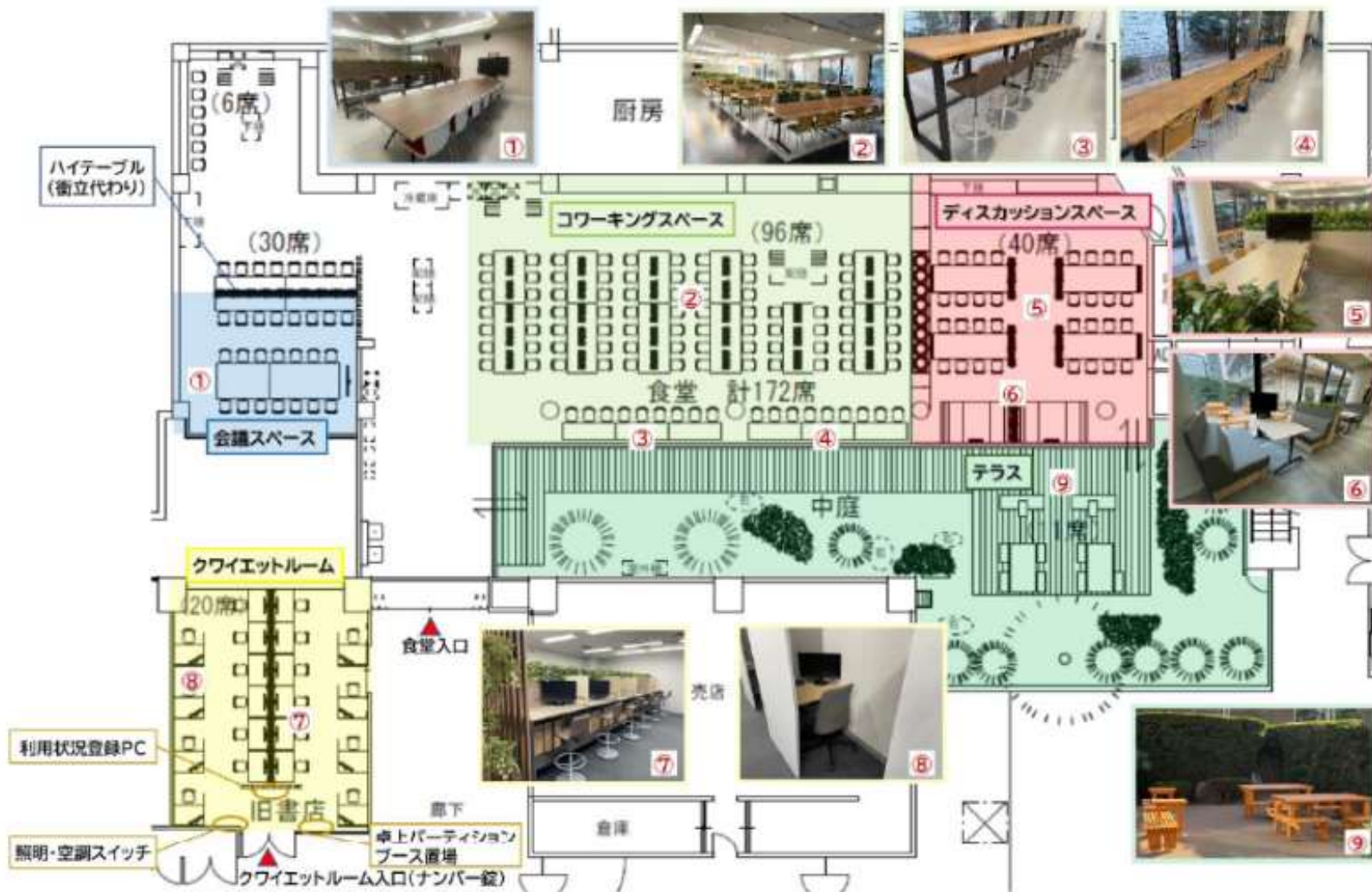
最大24名までの会議に対応

- ・講義スタイルでのレイアウトも可能
- ・モニター、ホワイトボード設置



# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 5、今年度のスマートオフィス事業



# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 5、今年度のスマートオフィス事業



# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 5、今年度のスマートオフィス事業



# 働きやすい職場(スマートオフィス)の整備

## 6、今後の展開(職員のワークエンゲージメント向上の取組)

【予算額】 95,305千円

### 目的

職員が働きやすい職場環境を整備し、健康増進とあわせて仕事のやりがいを高めることにより、職員のワークエンゲージメントを向上させ、質の高い県民サービスの提供を図るとともに、その効果を実証し、新たな庁舎の在り方の検討に活用する。

### 事業概要

※ワークエンゲージメント：仕事に対する「活力・熱意・没頭」の3つが揃った状態として定義される

#### 1 ABW型働き方改革の推進 86,700千円

##### (1) フリーアドレスエリアの設置 (新規) 70,120千円

- ・所属の垣根を超えて業務に応じ働く場所を選べる執務室を整備
- ・固定席に捉われないよう対象職員全員にスマートフォン(電話、位置把握等)を貸与



※ABW(Activity Based Working)  
仕事の内容等に応じて働く時間や  
場所を自由に選択できる働き方



レイアウト  
イメージ

##### (2) 地域版ワークラウンジの整備 (新規) 16,580千円

- ・地方庁舎の一角に、ABWに対応したワークスペース機能を設置
- ・ペーパーレスから業務プロセス改革を進めるための空間を整備し、地域機関での働き方改革を後押し



ワークラウンジ  
イメージ

#### 2 個々の職員へのきめ細やかな面談・指導体制の構築 5,855千円

##### (1) 職員のメンタルヘルス対策 (一部新規) 4,752千円

- ・保健師や心理士が、全新規採用職員に面談を実施し、メンタルケアや生活習慣改善を助言

##### (2) 若手職員・女性職員のキャリア支援等 (一部新規) 1,103千円

- ・将来に向けてキャリアを見つめ直す契機とするため、主任級昇任者を対象に「キャリアデザイン」に関する研修を実施
- ・女性職員を対象としたキャリアカウンセリングにおいて、育休中の職員が優先して受けられる枠を新設

#### 3 ワークエンゲージメント調査の実施 2,750千円

##### (1) ワークエンゲージメント調査の実施 (新規) 2,750千円

- ・働き方等に関する多角的な効果を検証し、指標を可視化
- ・分析結果を働き方改革や健康経営、キャリア支援等に活用し、さらなるワークエンゲージメント向上を図る



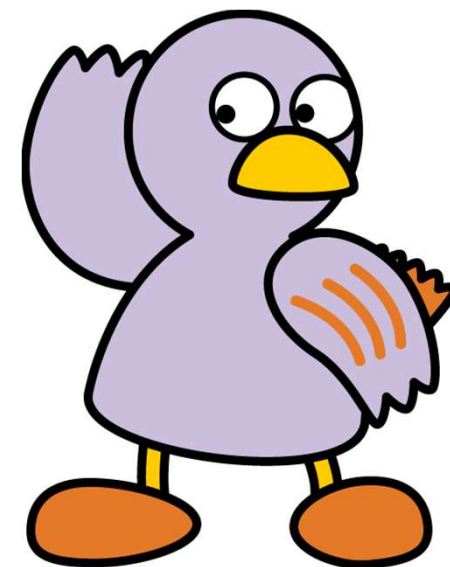
## 県庁舎再整備に向けた取組

「埼玉県庁」……………。  
どんなイメージが浮かびますか？

古い？

狭い？

どこにあるっけ？



# 県庁舎再整備に向けた取組

## 【埼玉県庁の位置】



## 【周辺図】



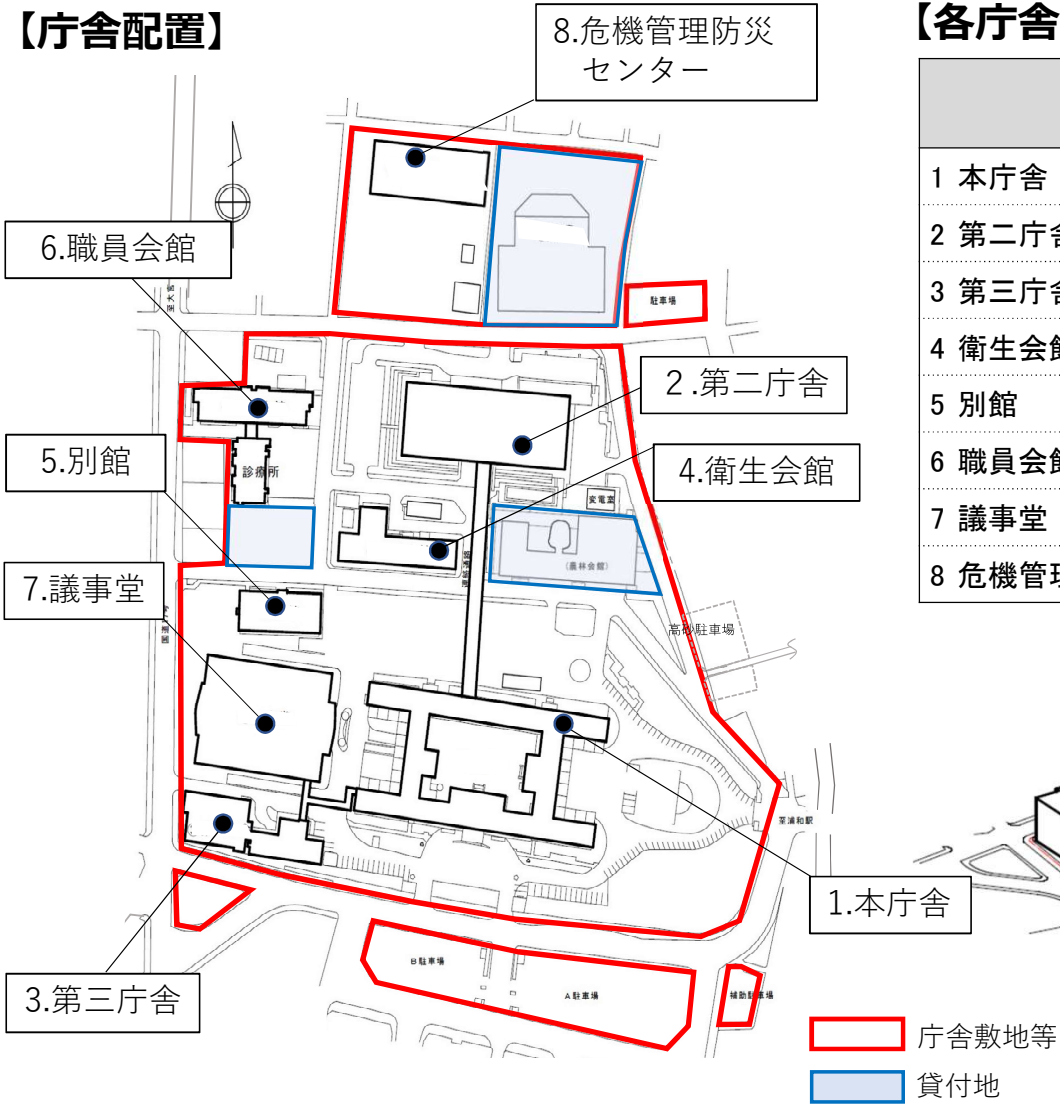
■ 庁舎敷地等

＜県庁までのアクセス＞

J R浦和駅から約800m（徒歩10分）

# 県庁舎再整備に向けた取組

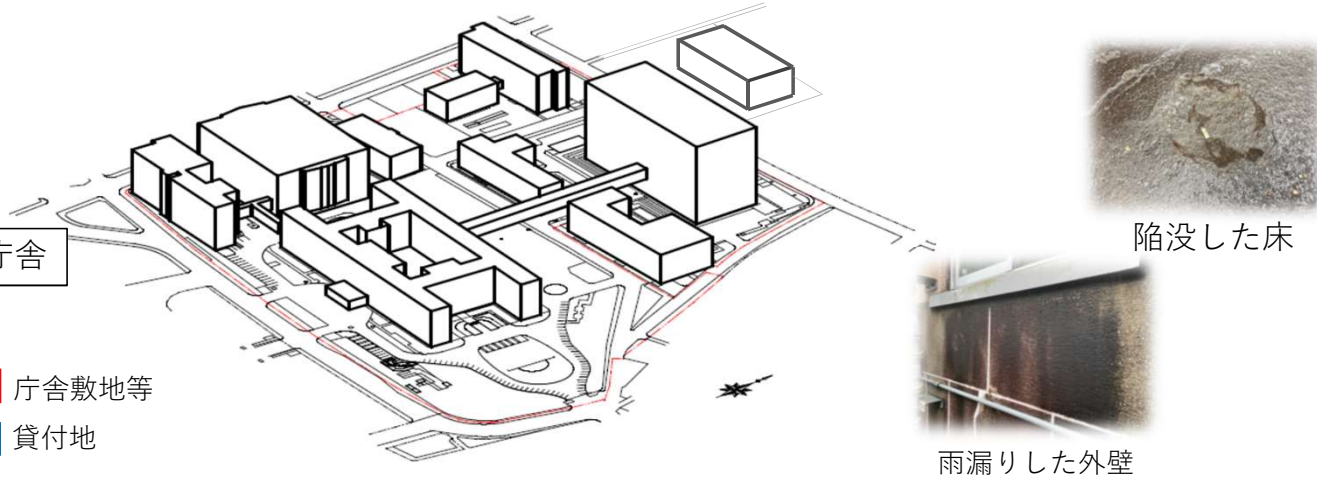
## 【庁舎配置】



## 【各庁舎の構造・規模等】

施設名	建設年度	築年数 (R5時点)	構造・階数	建築面積	延床面積
1 本庁舎	S26～30	72～68年	RC造 地上 5F / 地下1階	3,672 m <sup>2</sup>	22,836 m <sup>2</sup>
2 第二庁舎	S48	50年	SRC造 地上 10F / 地下2階	2,234 m <sup>2</sup>	33,514 m <sup>2</sup>
3 第三庁舎	S38・54	60・44年	RC造 地上 5F / 地下1階	1,996 m <sup>2</sup>	6,358 m <sup>2</sup>
4 衛生会館	S35	63年	RC造 地上 3F / 地下1階	929 m <sup>2</sup>	3,091 m <sup>2</sup>
5 別館	S42	56年	RC造 地上 4F / 地下1階	697 m <sup>2</sup>	2,784 m <sup>2</sup>
6 職員会館・診療所	S45	53年	RC造 地上 5F / 地下1階	889 m <sup>2</sup>	6,458 m <sup>2</sup>
7 議事堂	S58	40年	RC造 地上 6F / 地下1階	3,270 m <sup>2</sup>	18,065 m <sup>2</sup>
8 危機管理防災センター	H22	13年	RC造 地上 7F / 地下1階	1,532 m <sup>2</sup>	2,998 m <sup>2</sup>

延床面積合計 96,104 m<sup>2</sup>



# 県庁舎再整備に向けた取組

## 【検討体制】

### 令和2年度

組織名: 県庁舎問題検討会

構成: 総務部人財政策局長(会長)、管財課長、各部主管課長等

内容: 県庁舎に係る課題を討議・検討

### 令和3年度、令和4年度

組織名: 県庁舎再整備検討委員会

構成: 総務部所管副知事、各部長、議会・企業局等の代表者

内容: 県庁舎再整備に係る重要な事項を検討

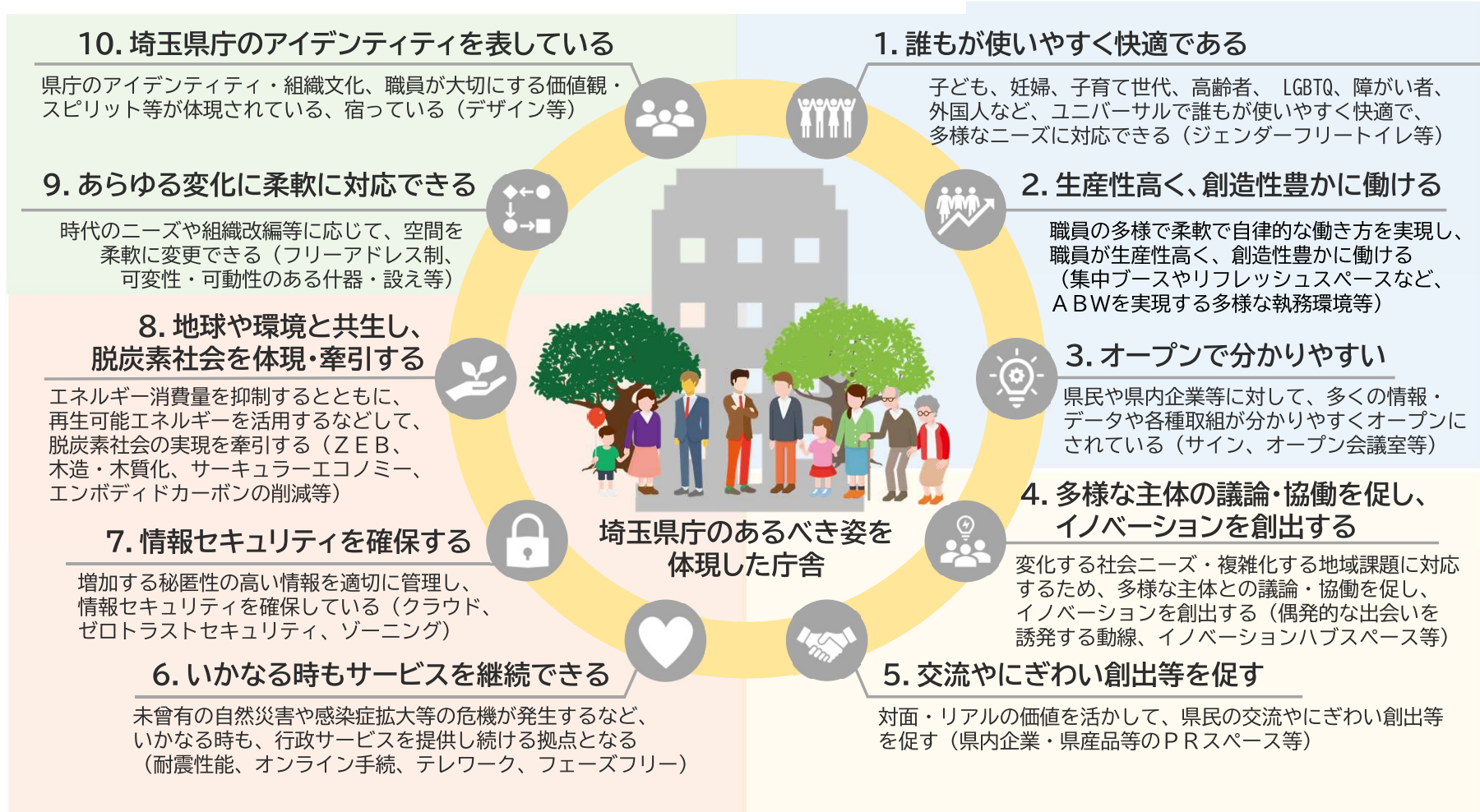
### 令和5年度

- ・ 県庁舎再整備検討委員会の専門部会として、「県庁舎再整備専門家会議」を設置
- ・ DX、働き方、庁舎整備など将来の県庁舎の在り方・県庁舎再整備に係る専門的な事項について、複数の専門家により多角的、複合的な視点で検討
- ・ 令和5年度の検討事項は
  - (1) 将来の県庁、県庁舎の主な課題について
  - (2) 将来を見据えた働き方、県庁舎・オフィス像について

# 県庁舎再整備に向けた取組

## 【再整備に向けた検討事項：県庁舎のあるべき姿の検討】

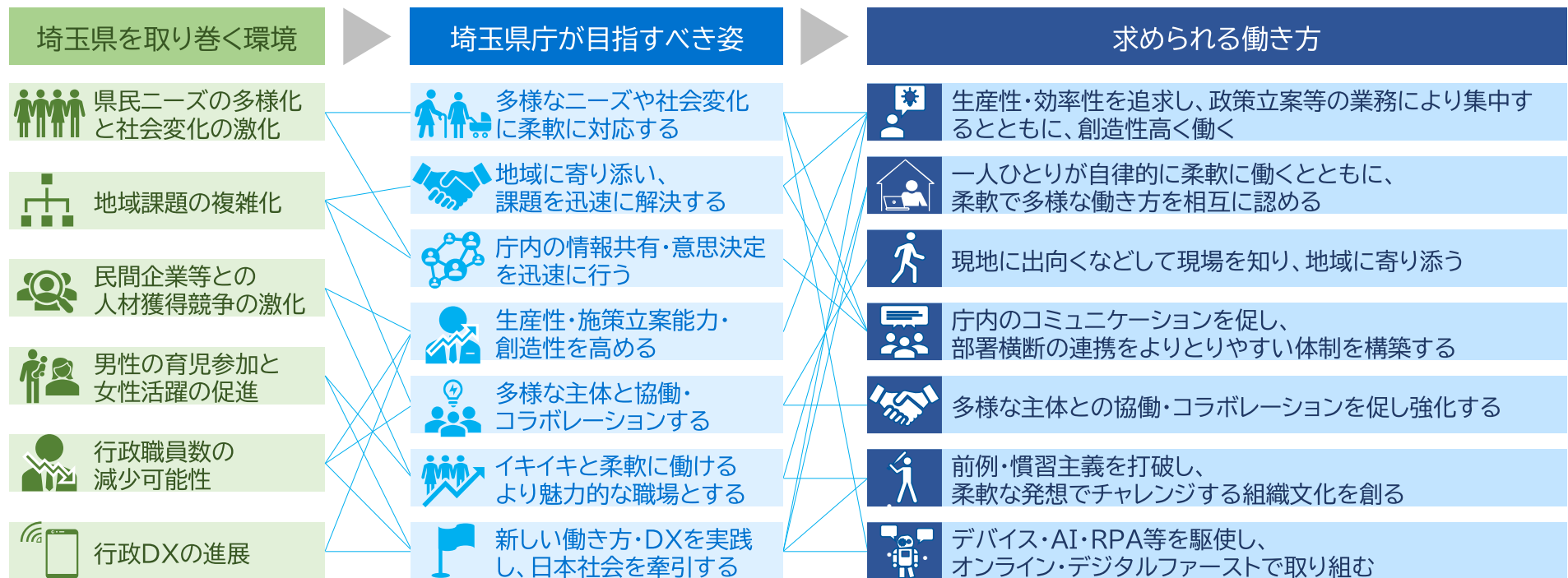
### ○県庁舎のあるべき姿のイメージ



# 県庁舎再整備に向けた取組

## ○埼玉県庁が目指す働き方①

- ・柔軟で多様な働き方と、生産性の高い効率的な働き方を主に目指すことが求められる。
- ・特に本県は、都内及び県内企業との人材獲得競争が激しいため、危機感をもって働き方改革に取り組む必要がある。
- ・本県は、東日本エリアの玄関口である大宮駅を有しているなど、首都圏以外への交通アクセスも優れていることから、外部の多様な主体と共創しやすい環境にあることが強みである。埼玉県庁は、令和3年5月より、東京都庁とサテライトオフィスの相互利用を実施し、職員の交流、情報共有や連携強化を促すなどの取組を行うなどしているが、引き続き、本県の強みや特徴を生かした働き方を検討し、実行する必要がある。



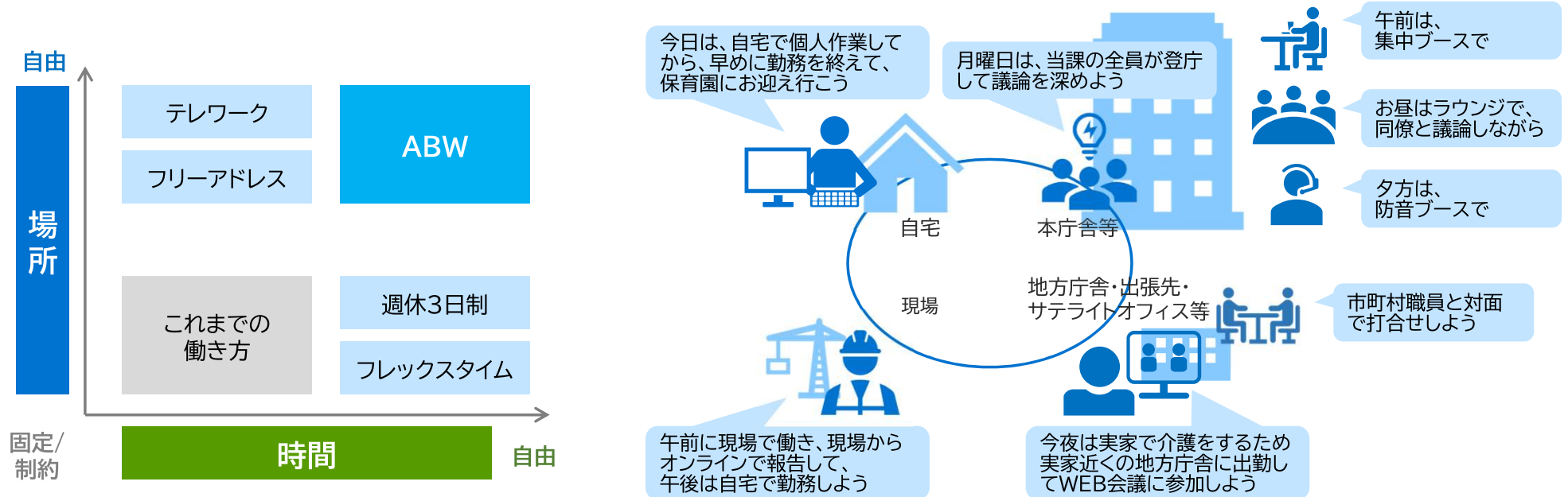
# 県庁舎再整備に向けた取組

## ○埼玉県庁が目指す働き方②

- ・そこで、埼玉県庁においても多様で柔軟な働き方を実現し、ABWが一般化していることを目指す。
- ・そのため、登庁とテレワークを組み合わせたハイブリッドワークの実現を推進する。
- ・ハイブリッドワークを推進しつつ、職員間のコミュニケーションの質を維持するためには、ビデオ通話やチャット等の多様なコミュニケーションツールを上手く活用することが重要となる。また、ハイブリッドワークを推進すると、対面のコミュニケーションの機会が減少することから、当面、日々のコミュニケーションの重要性が高まることに留意する。

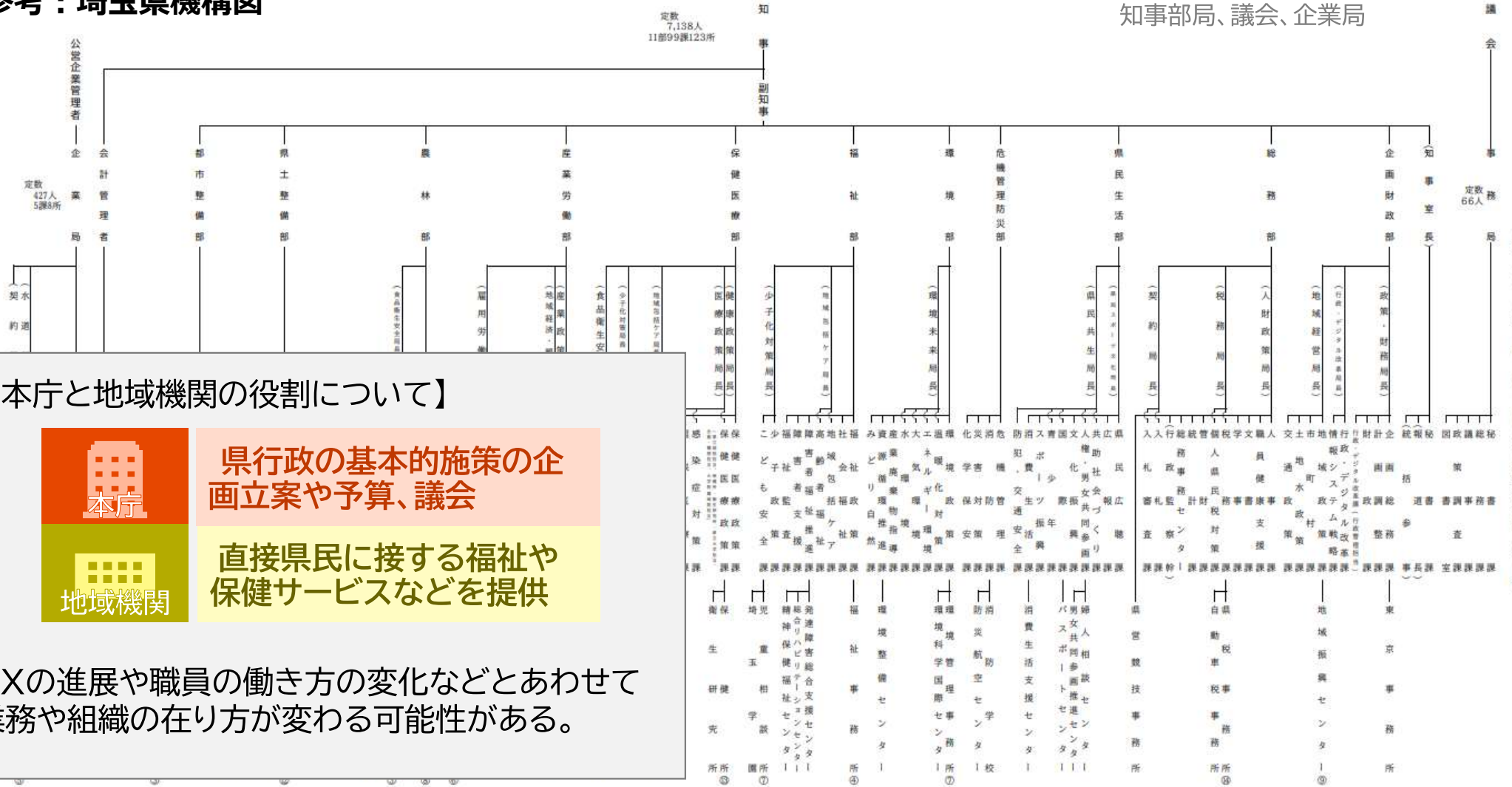
ABW=Activity Based Working

業務内容等に応じて、時間と場所を自律的に選択できる働き方



# 県庁舎再整備に向けた取組

## 参考：埼玉県機構図



### 【本庁と地域機関の役割について】



**県行政の基本的施策の企画立案や予算、議会**

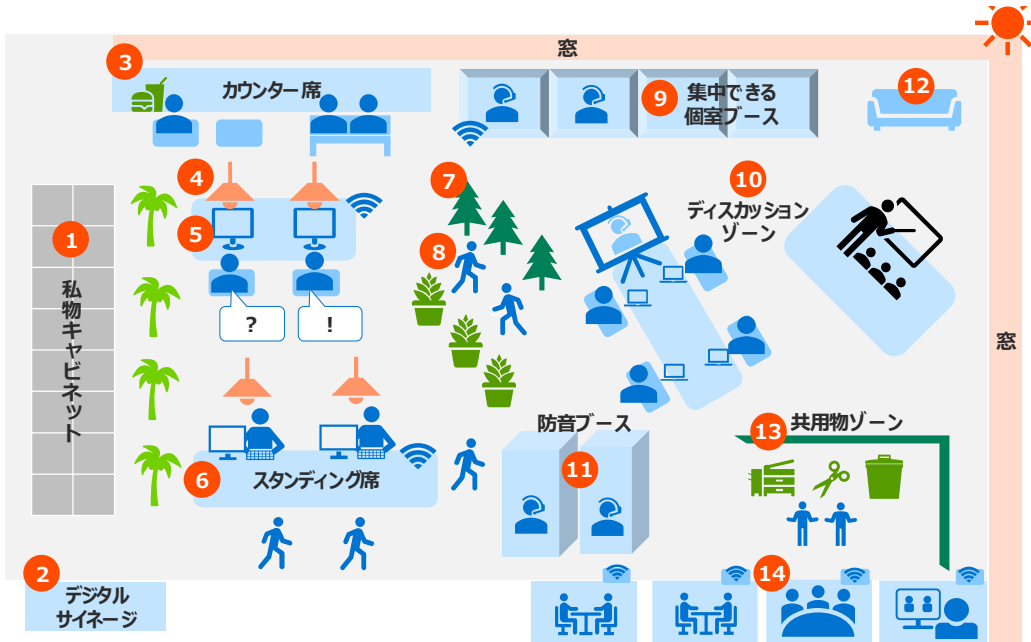
**直接県民に接する福祉や保健サービスなどを提供**

DXの進展や職員の働き方の変化などとあわせて業務や組織の在り方が変わる可能性がある。



# 県庁舎再整備に向けた取組

## ○新しい働き方を実現するオフィス



- 1 キャビネットを設置することで私物を効率的に管理
- 2 どこに誰が座っているかを画面でモニターで表示
- 3 景色を眺め、食べながら、リフレッシュして作業
- 4 照明等をオシャレにすることで居心地のよい空間
- 5 マルチモニターを設置し、作業を効率化するとともに、ペーパーレスを促進
- 6 立ちながら効率的に仕事しつつ、通行人と目線が合って挨拶と会話生まれる
- 7 緑を配置することで、居心地のよい快適な空間
- 8 縦横斜めで什器を配置し、揺らぎのある空間とすることで、偶発的な出会いを誘発
- 9 集中できる個室ブースを設置
- 10 対面の価値を活かしコミュニケーションスペースを充実
- 11 オンライン打合せに対応したブースの配置
- 12 ソファ等を配置し、リフレッシュエリアを設置
- 13 文具等の共有物を集約し効率的に維持管理するとともに、偶発的な出会いを誘発
- 14 多様な人数・形態に対応したミーティングスペース

# 県庁舎再整備に向けた取組

## ○ 利便機能

- ・ 県庁舎の魅力発信や庁舎を訪れた人に対する賑わい・交流の場などの利便機能は、県民サービスや職員の働き方の在り方の変化とあわせて考える必要がある。
- ・ 県の魅力を効果的に発信し、庁舎を訪れた人が県を体感できるようなことも考えられる一方、県民向けの機能を考える場合、一部の県民だけの利用ではなく、県民全体の利用を踏まえて考える必要がある。
- ・ 利便機能だけではない役割(非常時の防災利用など)を持たせ、整備する意義を高めることも考えられる。
- ・ 職員各々の多様な働き方を考慮し、必要な福利厚生・アメニティ機能を過不足なく提供し、職員のワークエンゲージメントや生産性などを高めることも重要である。



# 県庁舎再整備に向けた取組

## 【再整備に向けた検討事項：危機管理】

- ・ 切迫する巨大地震や、台風・豪雨などの激甚化・頻発化する災害、テロや新興感染症など、あらゆる危機の発生を想定し、備える必要がある。
- ・ こうした危機に対応できる庁舎、組織体制が重要である。

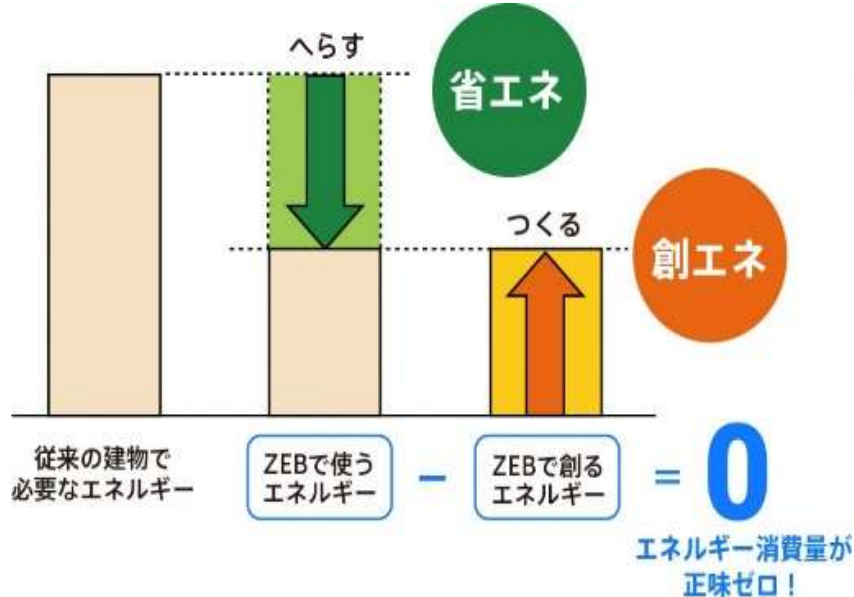
大分類	小分類	危機のシナリオ		
		自治体の所在地域全体	自治体庁舎	
自然災害	地震	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民が多数死傷する</li> <li>・ インフラが使用できなくなる</li> <li>・ 治安が悪化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民の住居が被災する</li> <li>・ 交通が長期間停止する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁舎に入館できなくなる</li> <li>・ 職員が出勤できなくなる</li> <li>・ 拠点と連絡がとれなくなる</li> </ul>
	洪水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内の住居が被災する</li> <li>・ 局所的にインフラが使用できなくなる</li> <li>・ 交通が局所的に停止する</li> <li>・ 衛生状況が悪化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁舎に出勤できなくなる</li> </ul>	
	土砂災害			
	噴火	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 局所的に停電が発生する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 局所的に停電が発生する</li> </ul>	
	落雷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器や配線が使用できなくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁舎の機器が使用できなくなる</li> </ul>	
感染症	新興感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民が多数罹患する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (ロックダウンにより)職員が出勤できなくなる</li> </ul>	
その他	テロ(ミサイル等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大規模集客施設等で県民が死傷する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁舎に入館できなくなる</li> <li>・ 庁舎が機能しなくなる</li> </ul>	
	サイバー攻撃	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治体の情報システムが利用できなくなる</li> </ul>	

# 県庁舎再整備に向けた取組

## 【再整備に向けた検討事項：脱炭素】

- ・ 脱炭素社会の実現に向けて、国では令和12年度に温室効果ガス排出量を平成25年度比46%削減するという目標を掲げている。
- ・ 本県の「地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(令和4年3月改定)」でも、国と同様に事務事業に係る温室効果ガス排出量を令和12年度に平成25年度比46%以上削減する目標を掲げている。
- ・ 同計画において、県有施設の新築・改築や大規模改修時にあたり、ZEB化などの導入を検討し、省エネルギー効果の高い新技術や再生可能エネルギーを積極的に導入することとしている。
- ・ 脱炭素社会の実現に向けて、最新の技術、考え方を取り入れた庁舎整備を検討する必要がある。

(ZEBイメージ)



## 参考

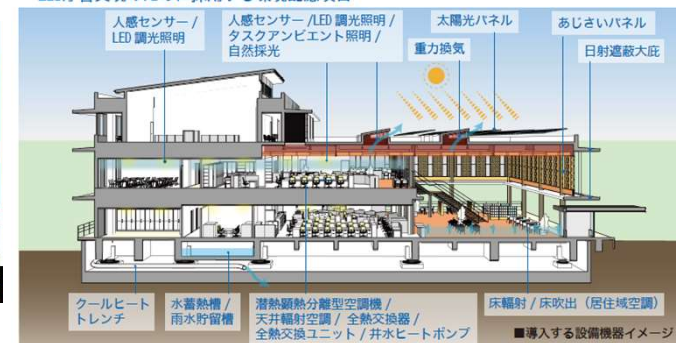
開成町庁舎(神奈川県・令和3年6月竣工)

- ・ 全国で初めて庁舎としてNearly ZEB (省エネ・創エネあわせて75%以上の削減) を取得。
- ・ 地下水を空調の熱源に利用、太陽光による創エネを含め、標準的なビルより81%のエネルギー削減を実現。



出所：開成町

ZEB庁舎実現のために採用する環境配慮項目



# 県庁舎再整備に向けた取組

【検討に当たっての取組：新しいオフィスの視察】



岐阜県庁舎（令和4年度竣工）



長崎県庁舎（平成29年度竣工）



伊丹市役所（令和4年度竣工）

- ★そのほか民間の先進オフィスも多数視察
- マイクロソフト 様
  - コクヨ 様
  - イトーキ 様
  - 三菱地所ホーム 様
  - ・
  - ・
  - ・

# 県庁舎再整備に向けた取組

## 【検討に当たっての取組：大学生や若手職員との意見交換】

### 1 知事と埼玉大学学生の意見交換会

【タイトル】 訪れよう！生まれかわった埼玉県庁

【政策提言の要約】

県民が訪れたいくなる県庁舎として、窓口の機能の集約化やオンラインサービスの提供といった利便性向上、庁舎の高層化や広場の整備といった場としての魅力の向上、駅と県庁舎を結ぶ動線の整備を提案。

【知事のコメント（抜粋）】

DXが進んで県庁にはパソコン1台あればいいくらいになった時、県庁舎に皆さんが何を期待するのかを知りたいと思っていたところで、大変刺激になった。

### 2 若手職員との意見交換

- ・ 将来の県庁を担う若手職員について、民間企業のオフィス視察を通して最先端のオフィス機能、働き方を学んでもらったうえで、将来の県庁舎の在り方などについて意見交換を実施

# 県庁舎再整備に向けた取組

## ○技術の進展など、未来を据えた検討は続く・・・

### 情報通信技術の進展

#### (1) ネットワークの進化

- ✓ 機能のソフトウェア化が進展し、提供者がレイヤーを跨いで提供する時代。
- ✓ 2030年代に導入される次世代通信インフラBeyond 5G (6G) において、様々な機能の実装。産業界も産学官連携組織やIOWN構想等を推進。

#### (2) AI技術の進化

- ✓ 2022年11月、オープンAIがGPT-3 (とその後継のGPT-3.5) をベースにした、対話型言語モデルを用いた「ChatGPT」チャットボットを公開、その後Microsoft、Google等も展開、2023年3月、オープンAIはGPT-4も公開。

#### (3) ロボット等の進化

- ✓ 産業のデジタル化や最新テクノロジーの普及により、ロボット需要が急増。
- ✓ 「デジタルツイン」で行った「シミュレーション結果」をフィジカル空間にロボット等を使ってフィードバックする「アクチュエータ」が重要。

#### (4) XR技術の進化 (メタバースの登場)

- ✓ XR (クロスリアリティ) 技術が日常生活に普及。
- ✓ インターネット上の仮想的空間で現実と同じ体験、実現困難な非現実体験、あるいはシミュレーションが可能となる「メタバース」、「デジタルツイン」が普及。

#### (5) 人、モノ、環境等データの重要性の増加

- ✓ AIの進展によりコンピュータがデータの意味や情報を解釈・処理するため、データ、データの属性や関連情報を記述したメタデータが重要。

#### (6) Web 3の登場

- ✓ Web1.0、Web2.0に続く分散型台帳・ブロックチェーン技術などを基盤とした「Web 3」が提唱。暗号資産、NFT、DAOなど、既存サービスツールの役割を一部技術的に補充・代替する可能性。



出所：総務省の情報通信審議会 情報通信政策部会 | IoT新時代の未来づくり検討委員会「未来をつかむTECH戦略」(平成30年7月)

出所：総務省の情報通信審議会「2030年頃を見据えた情報通信政策の在り方」の最終答申(令和5年6月23日)

## 県庁舎再整備に向けた取組

### ○最後に

- ・ ミライの県庁は県職員にとっても魅力的なオフィスにしたい！
- ・ でもミライの県庁の整備は長い道のり・・・
- ・ ミライを担う若手の活躍が欠かせない！

